

国際・災害対策委員会 基本方針（案）

国際・災害対策委員会 委員長 船津 和弥

1 昨今、新型コロナウイルスのパンデミックにより、人と人との密なコミュニケーション
2 が制限されている中で、一般社団法人佐賀青年会議所国際交流事業において従来の形式を
3 用いた交流を推し進めて行きたい反面、見直された手段オンラインを使った交流も視野に
4 入れた取り組みが必要です。災害においても10年前の東日本大震災を始め、熊本や佐賀で
5 も災害が多発している現状があり、佐賀JCだけでなく他団体と協力していく必要があります。
6

7 まずは諸先輩方が1985年から継続されてきた姉妹JCである社団法人台南市新營国際
8 青年商會との交流が37年目を迎え、これまで以上に強固なものにするため、佐賀青年会
9 議所メンバー総力を挙げ、心からのおもてなしで佐賀の地へ受け入れます。そして、新營
10 JCと佐賀JCの交流だけでなく他団体を含めた交流をするため、合同で交流できる場を
11 提供することで、郷土のさらなる魅力や発展の足掛かりにします。さらに、日本の文化や
12 歴史に触れて頂くために、佐賀の観光資源や伝統文化を体験して頂くことで楽しく過ごせ
13 る時間を創出します。また、災害においても被災地の情報・必要とされている物資を迅速
14 かつ効率の良い行動がとれるように、佐賀JCが率先して他団体と連携を取り、協力しあ
15 える新たなガイドラインを創出します。

16 混沌とした世界情勢の中で、国際交流を通じ他団体との連携を深め、改めてこの地元佐賀
17 の素晴らしさ、人と人との出会いに感謝し、個人の成長につなげるとともに、魅力ある佐
18 賀の明るい未来を創造していきます。

19 [事業計画]

- 21 1. 新營JC受入れ・会務交流会議の企画・運営（9月）
- 22 2. 裸ん行（大川）参加者への支援（2月）
- 23 3. 例会の企画・運営（3月）
- 24 4. A S P A C（台湾／台中）参加者への支援（6月）
- 25 5. サマーコンファレンス2021（横浜）参加者への支援（7月）
- 26 6. J C I 世界会議（南アフリカ／ヨハネスブルク）参加者への支援（11月）